

農業総合研究センター かわら版

第7号 平成17年10月28日発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘 6060-27

電話：023-647-3500

e-mail：nokense@pref.yamagata.jp

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見
ご要望をお待ちしております。

第84回日本養豚学会（会長：栗原良雄東京農大教授）大会（大会委員長：山形大学農学部萱場猛夫教授）が10月20、21日の両日鶴岡市中央公民館を会場にして開催されました。

第84回日本養豚学会大会 鶴岡市中央公民館で開催

一般講演は2日間で19課題発表されました。

農業総合研究センター畜産試験場養豚支場の五十嵐宏行専門研究員は、今年命名された本県のランドレース系統豚「ガッサンエル」における脂肪酸組成と遺伝的パラメータについて報告を行いました。

本県のランドレース種であるガッサンエルの造成過程で得られたデータ（背脂肪外層の融点の遺伝率は0.48、筋内脂肪割合の遺伝率は0.50等）から、ランドレース種の脂肪に関する改良の可能性が示唆されたという内容です。

まとめ	
・脂肪厚	飽和脂肪酸と正の相関 (特にC18:0の影響が大きい)
・脂肪融点	不飽和脂肪酸と負の相関 (内層はC18:1、外層はC18:2)
・筋内脂肪含量	飽和脂肪酸と正の相関 C18:2と負の相関

考察	
1. 本調査の結果より	○ 筋内脂肪量は改良できる可能性あり
2. 今後の方向	○ 脂質と他形質との関連 食味(アミノ酸等)、繁殖性、発育性

※ 更なるデータの積み上げが必要

図1、五十嵐専門研究員の発表スライドから

公開シンポジウムに約100名

公開シンポジウムは約100名の参加者で会場が埋まり、山形大学農学部の高橋敏能教授のコーディネートで進められました。

東北大学大学院農学研究科（経営情報学分野）の伊藤房雄助教授が、「食料自給率向上に関わる

国内養豚産業の位置付け」と題して基調講演を行い、これからの食のキーワードは『安全・環境・健康』であり、生産者と消費者の協働マーケティングを推進し、高品質低コストな自給飼料生産の実現、循環型・環境保全型畜産の実現に向けた政策支援の充実が必要であると結びました。

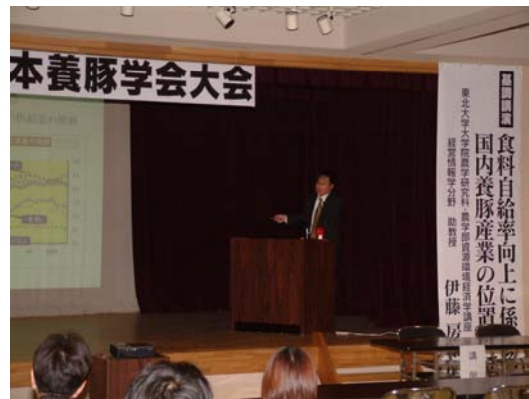


図2、基調講演する伊藤助教授

「山形県庄内から発信する 養豚産業への新しい試み」

続いて行われたパネルディスカッションでは、遊佐町飼料米研究会会長の今野進氏が「遊佐町における飼料米の取り組みについて」、(株)平田牧場主任研究員の池原彩氏が「飼料米給与豚の肉質について」、東京第一ホテル鶴岡総料理長の古庄浩氏が「地産地消の取り組み」についてそれぞれ取り組み事例を発表し、参加者からの質疑に応答していました。



図3、パネルディスカッションの様子